

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	習志野市立袖ヶ浦西小学校
-----	---------	-----	--------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

全国学力・学習状況調査において、本校児童の算数の平均正答率は、令和3年度は全国平均値をやや下回っていたが、令和4年度は全国平均値・県平均値をやや上回ることができた。

令和3年度の課題であった「データの活用」はよく理解できているといえる。しかし、「問題文を正しく読んで理解すること」には引き続き課題がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

これまでの経緯から、文章問題の読解力向上が重要であると考え、研究主題を「考える楽しさにつながる学び」、副主題を「学習素材や式の意味理解を高めることで、主体的に学習に取り組む意欲と態度を育む。」とし、取り組んだ。

3. 具体的な実践

「問いの意味理解の向上」を中心にすえて、以下について試行してきた。

- ・身近なものを素材とする。
- ・実体験を素材とする。
- ・教科等横断的な取組を進める。
- ・素材提示の仕方を工夫する。
- ・絵や図を使って読み解く。

4. 成果

主題に迫るためには、素材選び・教材提示の工夫・単元構成などを工夫する必要があり、そのことにより、児童の興味・関心や意欲が向上した。「考える楽しさ」につなげていくためには、まずは、興味・関心、意欲が大前提だと再認識した。

高学年でも、具体物や半具体物の操作、絵や図化・体験活動などを取り入れることは有用で、問いの意味理解や表現力を高めることができた。

振り返りカードについては、児童からの声は研究成果報告書の通りだが、教師からは、「子どものつまずきに早く気付くことができた。」や「授業の構成や流れが、子どもにとってわかりやすかったのかどうかを、教師自身が振り返り反省することができた。」「評価に生かすことができる。」などの意見があった。

◆担当指導主事から（葛南教育事務所 指導主事 鴫田 拓也）

導入では身近な素材をできるだけ活用したり、児童の生活と関わりの深い素材を提示したりするなど、児童の興味・関心や学習意欲を高め、問題の意味理解にもつながっていた。「自分で取り組む」では具体物や半具体物の操作をさせ、「広げ深める」では1人1台端末を使って自分の考えを共有するなどICTの効果的な活用を通して、主体的・対話的で深い学びが実現できていた。研究主題にあるように、「考える楽しさ」につなげていた。